



江湖新聞

第廿二號



定價

西垣文庫 特

文庫 10

7287

22



五月十九日 沛城の山道に臨

府下西條より仰付並に委令度當分江戸諸臺より各々兵士を付
了寺社町勘定を以り兩詰記録其時廿日申ニ悉く引渡す
不波事

但存仍ハレ北江以下行人ノ事の當分ハ勤ト仰付以

五月十九日 西洋七月 横濱板へ元卜日利新守ノ海

去十九日 江戶の於て戦争の風説を以て一々兵
大を以て突撃愕一堪ざる変事には岡争殺傷死にあり事

日本、新守も之を載せ其外ありの噂あり了枝葉を重祿の南之
日の間ハ行る事一今残るなく之をす取る右兵變の警事を
異記す

抑く徳川家の武士多人教彰義隊の名義を設け江戸の東部上野に
号せり寺院の屯集し薩摩肥前等外 官軍に 隊の如令ハその
用意多きを伺ひ少人数に委し之を殺害せり故に 友軍も
之を攻撃し屯集所より追放すと決意あり去る十四日 金曜
江戸市中に筋を老幼病者ハ平あ地へ立退くべき旨を達し且つ
上野の 官標の山麓に屯集し其の戦討に及ばず退き去る
中上ら徳川龜と敵は山祖先と其位重器を片付けたる事

命せられ夫々彰義隊討伐と云ふに似せ
 當り彰義隊退き口を断切り度小路の山面より攻撃を稀足
 午後第五字時迄に官軍利ありしが其時肥前より手書
 ムストロングと云ふ大砲二門を放發せしり戦機変し令々
 官軍の利とあり

あつた山内の寺院に火と手揚り最下砲台を手にあつたは
 彰義隊ハ子位口より方角よりあに控へ江戸市中ハ再び静穏
 及びこれ太早に力とて住民ニあつたは災難と云ふ又言を
 侍らば

右戦争より骨節を打て深手を負ふもの九十八人林原河戸部

の驚あつた元佛堂西傳習騎兵屯所の為に兩連一おへ来りて外國
 の醫者ウ井リス、スカン子ル、ゼンキン三先生の療治を乞へり右手頂の
 傷ハ大抵ライフル弾にて打せしものより療治中ハコロ、ホルムと
 又麻薬を用ひ骨節を切断するに手練神速と種々の術を尽
 せり右手頂も奇妙に癒り西洋の醫術も右に日本の醫術より
 秀とることを知り深く救済之恩を謝せりといふ
 又余海軍を受くるもの数人居留地とまり當節ハ并天近所の榮
 店に住せり

五月廿日 西洋七月廿日 出板回新書

官軍と上野彰義隊との戦争ハ 官軍の方大勝利とあり 初め

244 卷一

40

丸山洋裁藏出